

熱性けいれんについて



熱性けいれんは、6カ月～5歳ころの子どもが急な発熱に伴って意識障害、けいれんを引き起こす病気です。通常 38℃以上の発熱時で急激に体温が変化するときに起こり、半数近くが繰り返しますが、成長に伴い6歳前後でほとんど起こさなくなり経過は良好です。

日本では小児のおよそ8%、西欧では3%くらいにみられます。

◎ダイアップ（ジアゼパム）坐剤とアセトアミノフェン坐剤の併用

先にダイアップ坐剤を使用し、30分以上あけてからアセトアミノフェン坐剤を使用する。

◎1回挿入し、発熱が持続していれば8時間後に同量を追加する。